

Kumamoto

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.559 2019

YMCA News



2019年4月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区新町1-3-8
Tel 096-353-6397(代)

復興はいま



仮設住宅の前で植物に水をやる女性。左側の住居からはすでに退去していて、ドアには「空室」のテープが貼られている(木山仮設団地)

震災から、3年。

熊本県内では、各地で道路・施設等の改修に加え、生活再建を目指す人たちの住宅建設が見られるようになり、少しずつ復興の歩みを感じています。しかしながら、地元メディア以外で熊本の様子を伝える報道を目にすることは、災害の起きた時期を除いて、ほとんどありません。復興はどこまで進んでいるのか。新たな歩みを始める人。留まる人。復興の現場では、限られた情報からは見えてこない明暗が交錯しています。熊本地震の後、九州北部豪雨、西日本豪雨、北海道地震など、日本中で災害が相次ぎました。仮設住宅などで仮住まいを続ける被災者の姿が、不安を残したままの生活への対応やコミュニティーの再生など、新たな課題を私たちに投げかけています。

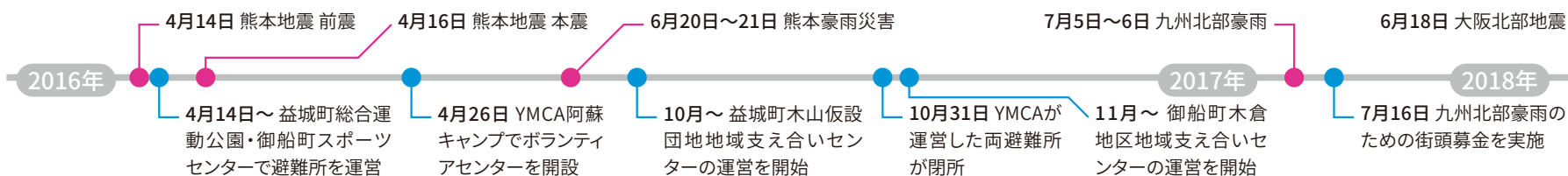
熊本地震3年

熊本はどこまで

最大震度7の揺れを史上初めて二度観測した熊本地震は、2016年4月14日の前震発生から3年を迎えます。県内の様々な場所で復旧・復興が進む中、未だに1万8千人の被災者が、仮設住宅などで生活を続けています。

一方、自宅再建のほか、徐々に災害公営住宅が整備されてきたこともあり、仮設住宅からの退去の動きが出始め、仮設団地では空き家も増えてきました。国は昨年、原則2年の仮設住宅入居期限を、最長4年まで再延長。益城町など複数の自治体が仮設団地の集約を決め、コミュニティの維持や生活再建格差が課題となるなど、熊本地震からの復興は新たな局面を迎えています。

❶ 復旧工事が進む熊本城の姿は、県民の復興への思いを後押しする。今も城内への立ち入りは規制されている(2019年3月撮影) ❷ 県外・海外からボランティアを受け入れる際に必ず訪れる、阿蘇大橋付近の大規模山腹崩壊の現場(南阿蘇村・2019年1月撮影) ❸ 益城町を流れる秋津川沿いに並べられた土のう。今も道路の補修工事が続く(益城町安永・2019年3月撮影)



益城町



熊本YMCAが運営し、熊本地震最大規模となった益城町総合運動公園の指定避難所には、ピーク時で1500名を超える被災者が身を寄せました。同公園内の総合体育館は解体され、現在は2019年度の完成を目指して新たな体育館の建設が進んでいます。



熊本地震後、テニスコートを子どもたちのためのプレイパークとして開放。YMCA学院の学生もボランティアとして関わりました。陸上競技場(写真右上)とともに改修工事が終わり、この4月から利用が再開されています。

阿蘇地域



地震直後は、がれきの撤去などがメインだったボランティア活動。YMCAでは海外からのボランティアを受け入れ、地震で人手不足となった農家のサポートを行うなど、現在も支援活動を続けています。



熊本地震の影響で、JR肥後大津駅～阿蘇駅間が不通に。YMCA阿蘇キャンプ最寄りの赤水駅は、駅舎が解体され、無人のホームに駅名標が佇んでいます。



▲熊本地震で寸断した国道57号。熊本市からYMCA阿蘇キャンプや保育園のある阿蘇市にアクセスするための迂回路では、慢性的な渋滞が発生しています。

▶国道57号北側復旧ルート「二重峠トンネル」は今年2月に貫通し、2020年度の開通を目指して工事が続いています。



熊本地震でハウスの半分が倒壊。による人手不足もあって、一時はやめました。

時間が経った今も、県外や海外から来てもらって、とてもありがたいです。皆さんが農業を手伝ってくださる姿、頑張ろうという気持ちになります。阿蘇光と農業。これからは、作業ばかりで関係が広がっていくような農園にして

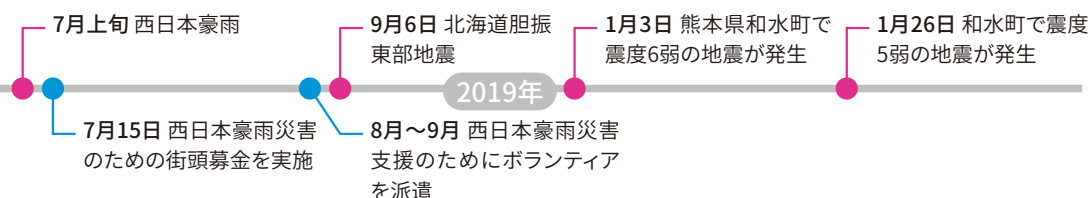
復興したのか



2

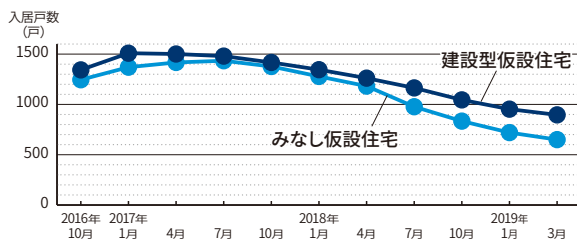


3



ピーク時は益城町全体で1500戸を超えていた建設型仮設住宅の入居戸数も、現在は900未満に。熊本YMCAが地域支え合いセンターを運営する益城町木山仮設団地でも空き家が目立つようになってきました。空き家が増えることで、今まで行われていた近所同士の見守りが難しくなっていくことが予想されます。

益城町仮設住宅入居戸数



情報提供: 益城町生活再建支援課



木山仮設団地で暮らす 長井 タケ子さん

脚が悪くて、昨年病気にかかってからは病院にもタクシーで通っている。地震の前は歩いてすぐの場所に住んでいたんだけど。仮設に移って来たらほとんど外出しないので、町の様子はわからない。でも、不自由はない。週に一度、友だちが車で買い物に連れて行ってくれるからね。

今は災害復興住宅ができるのを待ってる。大好きな花をいっぱい並べられる場所があるといいね。

御船町

阿蘇でいちご農園を営む
村上 勝寛さん



国道57号線の不通
めしてしまうことも考

らもボランティアに
ね。ボランティアの
を見て、自分たちも
阿蘇の主産業は、観
でなく農業を通じて
いきたいですね。



2016年6月

本震後に本格的な避難所運営を開始した御船町スポーツセンター。2016年11月にプールや武道場などの利用を再開、アリーナは改修工事が行われ、2018年1月から利用が可能に。地震前と変わらず、地域の皆さんのスポーツと交流の場となっています。



過去の災害に学んで 益城町の災害公営住宅

益城町では、2020年3月までに671戸の災害公営住宅を建設予定です。そのうち、仮設住宅やみなし仮設からの入居予定は647戸。東日本大震災などの先災地の情報に学びながら、それぞれが希望する地域の住宅に入居できるように整備計画を進めてきました。益城町の入居予定者の45%は65歳以上の高齢者。室内の段差をできるだけ少なくした、暮らしやすい住宅になっていることが熊本地震の公営住宅の特徴の一つです。

仮設団地から公営住宅に移ると、入居者は新たな人間関係をつくっていくことになります。そのため、町では入居予定者と地域の役員等との顔合わせ会を行うなど、コミュニティーづくりのサポートを行っています。

情報提供: 益城町公営住宅課



被災者ニーズの変化と 今後の支援活動



特定非営利活動法人
くまもと災害ボランティア団体
ネットワーク(KVOAD)
代表理事 樋口 務さん

熊本地震から3年が経ちました。3年は確かに節目のひとつではありますが、今なお続く震災の途中経過に過ぎません。最近では、被災者が抱える課題も多様化しており、一言では言えない状況になっています。

震災直後は「がれきの撤去」や「ブルーシート張り」が大きなニーズでしたが、仮設住宅への入居が始まると、仮設住宅で暮らす方々の生活支援、みなし仮設入居者の交流支援など、「つながりを構築する」ための支援活動が重要視され、多くのボランティア団体によって実施されてきました。

今後、住宅を確保し仮設住宅を離れた方に対しては、様々なイベントなどを通じて、地域のつながりを取り戻すことに加えて「地域の活性化」にも貢献できる支援活動が求められてきます。

このように、支援活動の形は様々に変わっていくのですが、ボランティアを行う人や団体は、震災直後のピーク時の2割程度までに減少していることも事実です。県内各地で復興が進むにつれ、被災者のニーズは復興の進捗度合いによって、地域によってバラバラになると予想され、活動の分野や範囲も変化することでしょう。被災者のニーズは、「少なくなった」のではなく「多様化」していくのです。

岡 総主事の タラン トン Vol.57



4度目の春

春は新たなスタートの季節です。先月行われた卒業式や卒園式では、喜びに満ちた感動的な旅立ちに祝福を感じたばかりです。新しい学校に入学する期待と不安、新しい職場への意気込みなど様々な思いの中、心に葛藤を抱える方もいらっしゃるでしょう。

熊本地震から4度目の春を迎えました。まだまだ復興の途上ではありますが、熊本城天守閣の姿を垣間見ると、一步一步前に進んでいる

ことを実感します。甚大な被害を受けた益城町総合体育館の新築建設も始まりました。2020年春の再開が目標だそうです。先行して今月から陸上競技場、サッカーグラウンドとテニスコートの施設利用が始まりました。発災時の避難所施設としての記憶が残る中で、新たな器が与えられ、希望に満ちた春を迎えられることに感謝したいと思います。

先月もYMCA運営委員、ワイズメンズクラブなど、多くのボランティアに支えられ、益城町木山仮設団地、御船町スポーツセンター、YMCA阿蘇キャンプで困難な中におられる人々に寄り添う支援活動を行いました。笑顔あふれる参加者の皆様の姿に、私たちが勇気づけられました。

国内外で起こる自然災害の情報を「他人事」ではなく「自分事」として考えて行動する、自分

のためではなく誰かのために生きる、そのような生き方を選択する私たちでありたいと願います。愛にあふれる生き方を通して、互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会をつくることを目指していきます。

聖書の中に、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」という言葉があります。神様と自分と隣人を愛する三つの愛。神様の愛が私に、そして隣人に注がれている。だからその愛に応えて、主を愛し、自分を大切に、隣人を愛する。これが、私たちが求めるべき生き方ではないかと思えます。

そのような意味をもって、2019年度の基本聖句を「隣人を自分のように愛しなさい」といたしました。

熊本地震関連行事

熊本県内で実施される熊本地震3周年行事をご紹介します。

熊本地震犠牲者追悼 一般献花

熊本地震で犠牲となられた方々への哀悼の意を表するため、一般献花の場が開放されます。

日時 4月14日(日) 12:00～16:00

場所 熊本県庁本館地下大会議室 開催 熊本県

くまもと復興・復興有識者会議

これまでの復興の歩みを振り返り、改めて、熊本を目指す「創造的復興」を議論するための「くまもと復興・復興有識者会議」が開催されます。※事前のお申込みが必要です。

日時 4月14日(日) 15:00～17:00

場所 ホテル熊本テルサ テルサホール(熊本市中央区水前寺公園28-51) 定員 300名(申込先着順)／参加費無料

申込 熊本県のホームページをご覧ください(4月10日×切)

開催 熊本県

木山仮設団地 熊本地震3周年行事

熊本YMCAが地域支え合いセンターを運営する木山仮設団地で熊本地震3周年の集いが開催されます。

日時 4月14日(日) 11:00～ ※21:26に黙とうを行います。

場所 木山仮設団地 内容 木山仮設団地少年少女合唱団『smile No1』コンサート・こども食堂・カフェ・ステージイベント・竹灯籠(各プログラムの時間の詳細はお問い合わせください)

問合せ 移動図書館おあしす Tel 090-6842-0404(橋本)

わたしと聖句



ルカによる福音書21章33節

天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。

すべての壁を越えて

熊本地震の発生直後から、YMCAを通してさまざまなボランティアに参加させて頂きました。避難所の体育館に食べ物を届けたり、家屋の後片付けを手伝ったり、仮設住宅を訪ねたり、被災者の皆さんと一緒にフグ鍋をついたり、思い出は尽きません。やや不謹慎な言い方になりますが、ボランティア活動を通して、この地震がなければ決して経験できなかった皆さんの恵みを頂いたように思います。

地震が発生し、日常の生活が崩れ去るとき、日常生活の中でわたしたちの間にある心の壁も崩れ去ります。地震という困難な状況の中では、これまで声をかけ

あったことがなかった者どうしが、「大丈夫ですか」と声をかけ合うようになり、年齢も職業も違う者どうしが、同じボランティアとして瓦礫の後片付けに汗を流す。そんなことが起こるのです。

地震は、建物だけでなく、年齢や職業、身分などの違いによって造られた心の壁も、すべて壊してしまします。そのとき、あらゆる隔たりを越えて、互いをいたわり、思いやり、心を開いて真心を交わし合う天国の交わりが実現するのです。すべてが崩れ去ったとき、わたしたちの心の中に眠っている愛が目覚めます。そう言うのもいいでしょう。

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」とイエスは言います。それは、たとえ天地が滅びても、愛は決して滅びないということかもしれません。むしろ、地上のすべての壁が崩れたときにこそ、わたしたちは自分の心の中に愛があることに気づき、自分の本当の姿を取り戻すのではないのでしょうか。取り戻した本当の姿を見失わないようにしたいと思います。

カトリック宇部教会

片柳弘史

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡 成也 編集人／因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい